

# 北田遺跡

箕輪町国民健康保険東部診療所改築工事  
に伴う北田遺跡緊急発掘調査報告書

1993年

長野県上伊那郡箕輪町教育委員会

# 北田遺跡

箕輪町国民健康保険東部診療所改築工事

に伴う北田遺跡緊急発掘調査報告書

1993年

長野県上伊那郡箕輪町教育委員会

## 序

箕輪町教育委員会

教育長 堀 口 泉

北田遺跡は、南小河内区の北部にあり、また古くから町の重要な遺跡として知られている大垣外遺跡はこの遺跡の南側に位置しています。本遺跡は、今回老朽化が激しく、新築移転することになった東部診療所建設に伴って現地視察を行った結果、周知の遺跡として認定されたため発掘調査を実施して記録保存を行うことになりました。

調査の結果につきましては、遺物の出土は極めて少なかったものの、縄文時代の狩猟場の遺跡を確認することができました。詳細につきましては本文に記しておりますので、今後多くの方々に幅広く活用していただき、郷土史解明の一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査に際しまして深いご理解とご協力をいただきました南小河内区の皆様を始め、調査に直接従事してくださりました団員の皆様に心より感謝申し上げます。

## 例　　言

1. 本書は、長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪3295-2番地他に所在する北田（きただ）遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は、箕輪町教育委員会が行ったものである。調査は、平成4年4月2日から5月7日まで実施し、引き続き整理作業及び報告書の執筆作業を行った。
3. 本書を作成するにあたって、作業分担を以下の通り行った。
  - 挿図作成－赤松　茂、根橋とし子、宮脇陽子
  - 写真撮影・図版作成－赤松　茂、根橋とし子、宮脇陽子
4. 遺構図は、次の縮尺に統一した。  
土坑－1：40
5. 本書の執筆は、赤松　茂、根橋とし子、宮脇陽子が分担した。
6. 本書の編集は、赤松　茂、根橋とし子、宮脇陽子が行った。
7. 出土遺物及び図版類は、すべて箕輪町教育委員会が保管している。広く活用されたい。

# 本文目次

題　字	團　長　樋口彦雄
序	教育長　堀口　泉
例　言	
本文目次	
挿図目次	
表　目　次	
図版目次	
第Ⅰ章　遺跡の立地	1
第1節　位　置	1
第2節　自然環境	2
第3節　歴史環境	3
第Ⅱ章　調査の経過	5
第1節　調査に至る経過	5
第2節　調査団の編成	5
第3節　調査日誌	6
第Ⅲ章　遺跡の状態	7
第1節　調査方法と結果概要	7
第2節　層　序	7
第Ⅳ章　検出遺構	12
第1節　土　坑	12
第Ⅴ章　まとめ	16

## 挿図目次

第1図 位置図 .....	1
第2図 周辺遺跡分布図 .....	4
第3図 調査区設定図 .....	8
第4図 全体図 .....	9・10
第5図 土層図 .....	11
第6図 土坑実測図1 .....	13
第7図 土坑実測図2 .....	14

## 表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧表 .....	3
第2表 土坑一覧表 .....	15

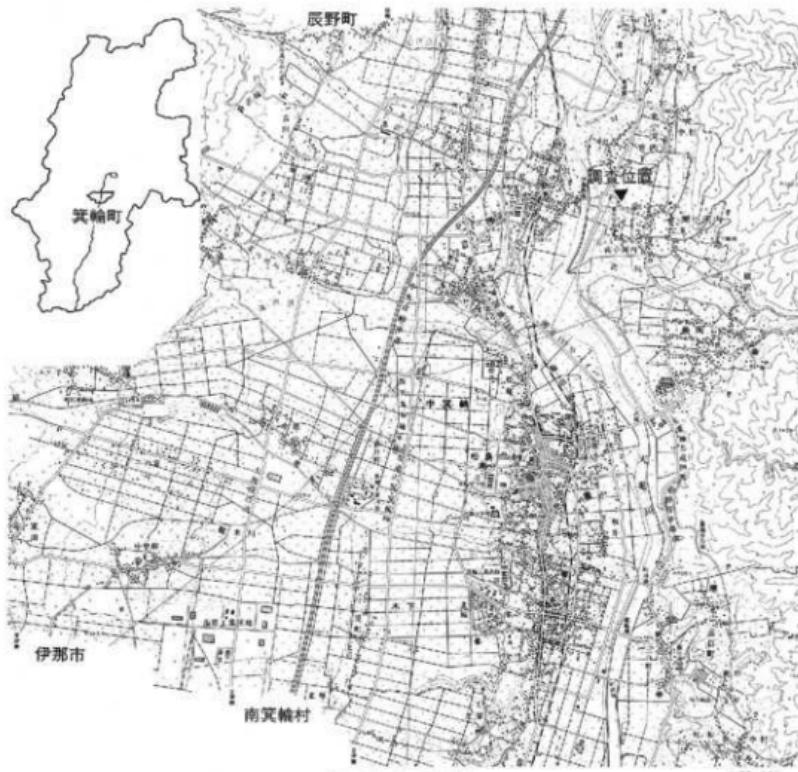
## 図版目次

図版1 調査地近景（東より）、調査地全景（南より）	
図版2 土層堆積状況1、土層堆積状況2	
図版3 1号土坑、2号土坑、3号土坑	
図版4 4号土坑、5号土坑、6号土坑	
図版5 7号土坑、8号土坑、9号土坑	
図版6 10号土坑、11号土坑、12号土坑	
図版7 結団式風景、調査風景、調査参加者	

# 第Ⅰ章 遺跡の立地

## 第1節 位 置

北田遺跡は、長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪 3295-2 番地他、北緯 35°55'56"、東経 137°59'50" の地点で大垣外遺跡の北方の標高約 706m に位置する。本遺跡のある南小河内区は、箕輪町の東方部で沢川によって形成された扇状地のほぼ末端部に位置する。ここは、眺望もよく南に仙丈岳、北には守屋山を望むことができる。また、天竜川の河岸段丘上にあるため対岸の沢区、大出区が展望できる。天竜川との比高差は約 15m を計る。



第1図 位 置 図

## 第2節 自然環境

箕輪町は、西に木曾山脈、東は赤石山脈に囲まれた伊那盆地の東方にあり、諏訪湖を源とする天竜川が、町のほぼ中央を東西に二分するように南流している。その両岸は河岸段丘と数多い扇状地とが独特の地形を作り出している。東方の山麓から流れる沢川によって形成される扇状地は川を挟んで長岡区と南小河内区に分かれる。扇状地における地質構造はローム層とその下の砂岩・粘板岩を主とする円錐層・砂層で構成されている。天竜川はその扇端部を南流し、流路に沿って河岸段丘を造り上げている。段丘の突端部は天竜川や中小河川の氾濫による水害を受けにくい緩やかな傾斜地である。段丘下には扇頂部や扇尖部より地下に浸透した地下水が伏流水となって天竜疊層と沖積層の境に出る湧水が多く、扇状地を流れる小河川の水利とあわせ、豊かな水源に恵まれている。

北田遺跡は、この扇状地の突端部にあり上記の通り恵まれた自然環境の中に存在していると言えよう。



上空より遺跡を臨む

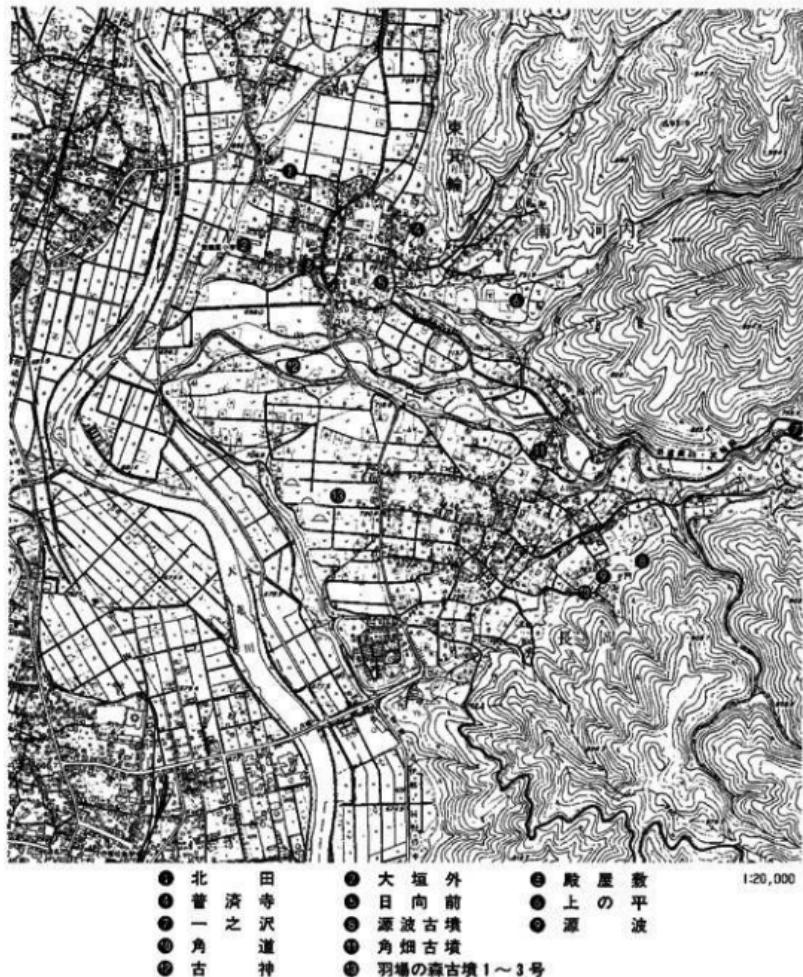
### 第3節 歴史環境

天竜川左岸段丘上一帯は竜東地区と呼ばれ、ここには長岡区、南小河内区が東部の一単位として存在している。地形は天竜川沿岸水田地帯から小段丘や扇状地を経て伊那丘陵になっている。この竜東地区の遺跡の分布状況は、沢川の河岸段丘上にみられる遺跡(1、2、4、12)と、山裾に広がる遺跡(3、5~11、13)とに分けられる。大垣外遺跡は、前者の代表的な遺跡と言える。後者の遺跡の多くは、長岡区にあり、ここは昔から土地が肥沃であるため人々の生活の舞台であった。また、以前は30基前後の古墳が存在していたが、現在では10基ほどが確認できるのみである。沢川を隔てた南小河内地籍の舌状台地上に、上の平城跡(遺跡)がある。

これらの遺跡を保護していく上でも、今後この一帯における開発には、充分な注意を図っていく必要があると言える。

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	地 箇	立地	時 代						備 考
				旧石	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近	
1	北 田	南小河内	段丘		○			○		今回調査
2	大 垣 外	南小河内	扇央		○	○	○	○		平成元年第一次 平成4年第二次 発掘調査
3	殿 屋 敷	南小河内	扇央		○					
4	普 济 寺	南小河内	台地		○				○	昭和63年発掘調査
5	日 向 前	南小河内	扇央		○					
6	上 の 平	南小河内	台地	○	○				○	昭和44年県史跡指定
7	一 之 沢	長 岡	山麓		○			○		昭和62年発掘調査
8	源波古墳	長 岡	扇頂				○			昭和62年発掘調査
9	源 波	長 岡	扇頂		○			○		昭和62年発掘調査
10	角 道	長 岡	扇央		○					
11	角烟古墳	長 岡	扇央				○			
12	古 神	長 岡	扇央		○	○			○	平成2年発掘調査
13	羽場の森古墳 1~3号	長 岡	段丘				○			



第2図 周辺遺跡分布図

## 第II章 発掘調査の経過

### 第1節 調査に至る経過

箕輪町国民健康保健東部診療所は、地域住民に根ざした診療活動を目指して、昭和29年に設立され現在に至っている。老朽化が進む中、随時改築を行ってきたが、建物が狭いうえ駐車場がない等、より充実した診療活動を行うべく、国民年金・厚生年金積立還元融資を受け、現診療所の北側に用地を取得し、建物を移転新築をするに至った。

町教育委員会は、本改築工事に先立ち、施設の所在する一帯の地形観察を中心とした遺跡の立地条件と南側に隣接する大垣外遺跡との関連性及び繼続性を考慮し、周辺での遺物表面採集等の、事前範囲確認調査を実施した。その結果、遺物の確認を大きな根拠として、保護の対象となる町の周知の遺跡として認定した。これらの経過を踏まえて町教育委員会と開発事業主体である町福祉課との保護協議を重ね、事前に発掘調査を実施し記録保存を行うことになった。

調査は、平成4年4月2日から5月7日までを調査期間とし、町教育委員会が新たに調査団を結成し、調査を行う運びとなった。

### 第2節 調査団の編成

#### 調査団

団長 樋口 夏雄

調査主任 赤松 茂 箕輪町郷土博物館学芸員

調査員 福沢 幸一 長野県考古学会員

調査員 根橋とし子 箕輪町郷土博物館臨時職員

調査員 宮藤 陽子 箕輪町郷土博物館臨時職員

調査員 本田 秀明

同員 井上武雄、遠藤 茂、大槻泰人、岡 章、岡 正、春日義人、唐沢光國、  
小池久人、小鶴久雄、後藤主計、笹川正秋、戸田隆志、中坪毅安男、野村金吉、  
伯耆原正、堀五百治、松田貴一、松田幸雄、水田重雄、向山幸次郎、山口今朝人、  
山口昭平、清水すみ子

## 事務局

堀口 泉 箕輪町教育委員会教育長  
上田 明勇 箕輪町教育委員会社会教育課課長  
原 宏三 箕輪町教育委員会社会教育課係長  
柴 登巳夫 箕輪町郷土博物館主任学芸員  
石川 寛 箕輪町郷土博物館学芸員  
赤松 茂 箕輪町郷土博物館学芸員  
酒井 峰子 箕輪町郷土博物館臨時職員  
根橋とし子 箕輪町郷土博物館臨時職員  
宮路 陽子 箕輪町郷土博物館臨時職員

## 第3節 調査日誌

4月6日（月） 晴 発掘調査団の安全を祈願して神事を執り行った。調査団員へ委嘱状が手渡された。調査範囲の杭打ちと試掘を行った。箕輪町J A有線放送、みのわ新聞、箕輪毎日新聞が取材に来た。

4月14日（火） 晴 重機による表土剥ぎを行った。出土遺物は何もなかった。

4月15日（水） 晴 重機による表土剥ぎを行い、遺構上面確認を行った。遠景写真を撮った。

4月16日（木） 雨 室内作業。

4月17日（金） 晴 遺構上面確認を行った。

4月18日（土） 晴 遺構上面確認を行った。調査範囲の南東隅にトレンチを入れた。

4月20日（月） 晴 遺構上面確認とトレンチの掘削を行った。またグリッド打ち、土坑の土層断面測量、調査区東壁の壁削りを行った。土層の調査のため2m四方の試掘坑を1基設定し、ローム層の下まで掘り下げた。

4月21日（火） 晴 土坑12基が検出され、土層断面測量を行った。

4月22日（水） 雨 室内作業。

4月23日（木） 晴 土坑の土層断面測量と全掘を行った。また写真も撮った。

4月24日（金） 曇後雨 土坑の土層断面測量を行った。土坑のうち2基は狩猟のための「落とし穴」土坑と推測された。中日新聞、みのわ新聞、長野日報が取材に来た。

4月27日（月） 晴 試掘坑の土層断面測量、調査区東壁の壁削り、全体測量を行った。

4月28日（火） 晴 全体写真を撮った。調査区東壁の土層断面測量、土坑のエレベーションを取った。作業具の撤収を行い、調査をすべて終了した。

## 第III章 遺跡の状態

### 第1節 調査方法と結果概要

調査は、土層堆積状況と遺構・遺物の有無を確認するため、まず調査区内に任意に $2\times 2\text{m}$ の試掘グリッドを設定し、手掘りによる試掘調査を行った。そしてその結果を基に、遺構の確認された9層直上およそ $10\sim 15\text{cm}$ までの表土を、大型重機により除去した。その後は手作業により遺構上面確認→各遺構の排土→測量・写真による記録の順で作業を進めた。確認された遺構については、遺構の主別ごとに確認順で番号をつけた。

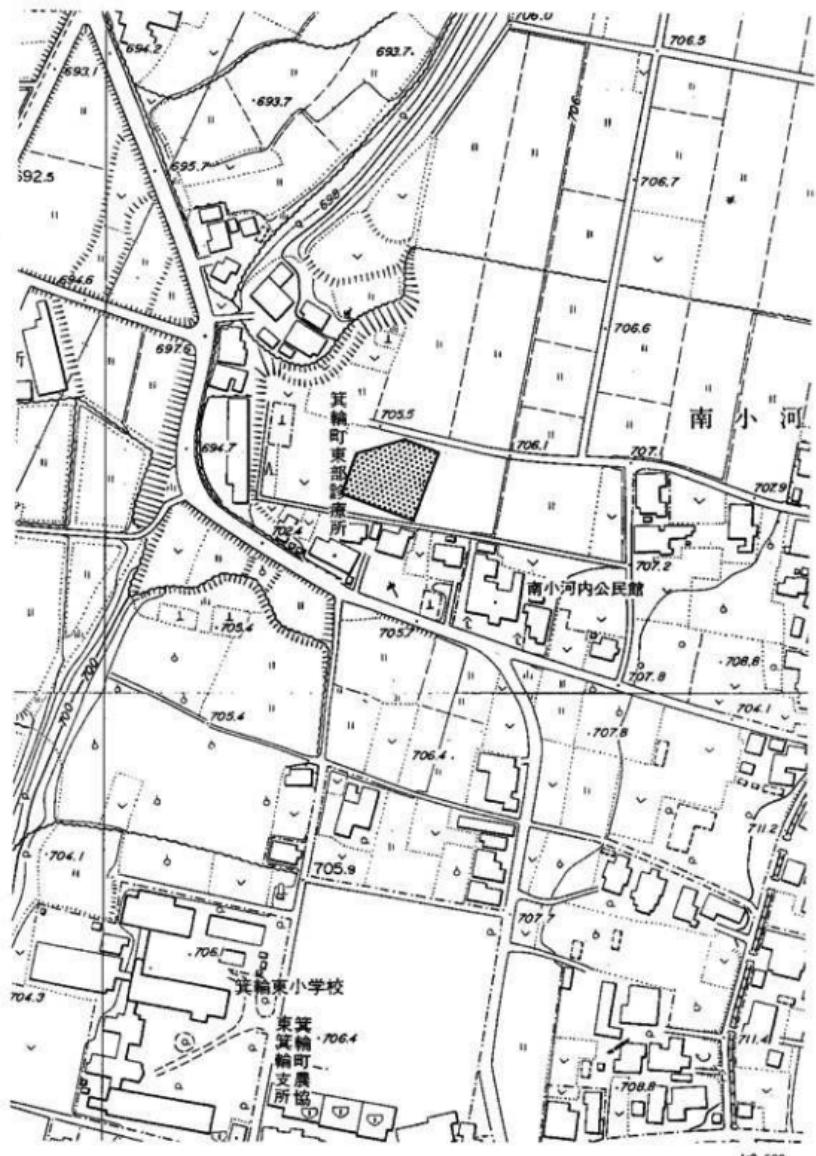
グリッドは、5m四方で主軸を南北方向に併せて設定し、南北方向は北よりアルファベットを、東西方向は西よりアラビア数字を用いて標記した。ベンチマークは、水準点より移動し調査区北側に任意に設定した(705.932m)。検出した遺構は、次の通りである。

- ・土坑12基(鐵文時代、時期不明)。

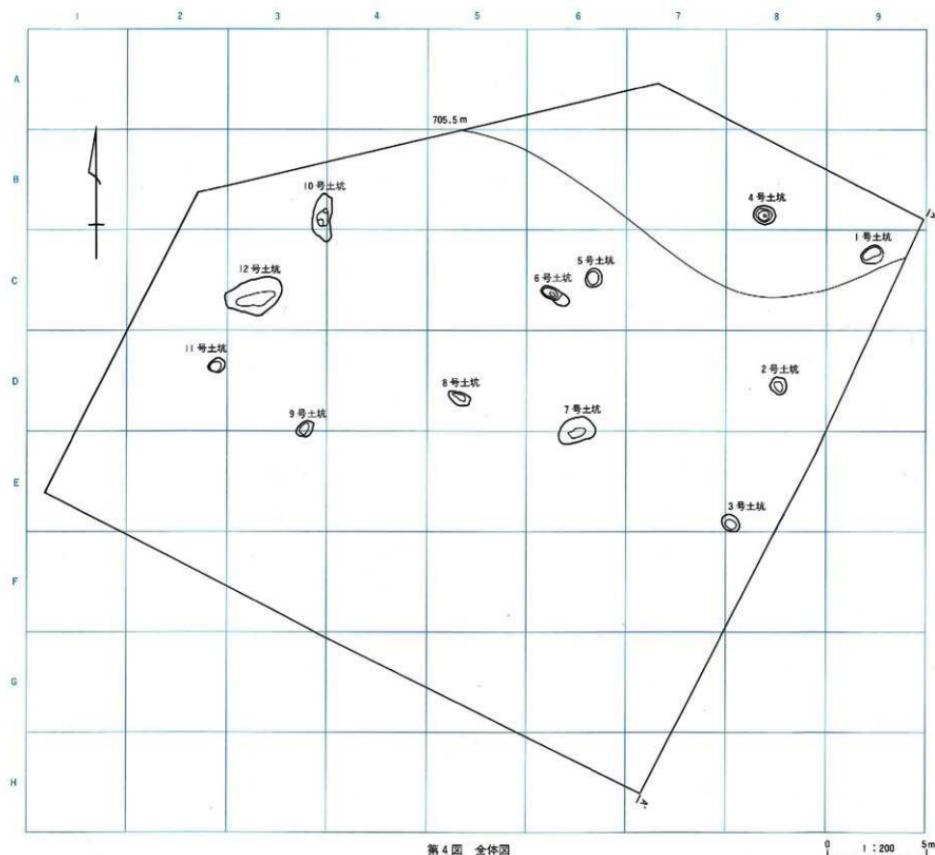
### 第2節 層序

沢川の押し出しによって形成された長岡扇状地は、その西側を南流する天竜川によって扇端部を侵食し、河岸段丘を形成している。本遺跡は、沢川を挟んだ扇状地の北側でかつ段丘上に位置している。この一帯における基本的土層状況は、耕作土等の黒褐色腐食土層→輕石・スコリア・ラビリを混入するローム(テフラ)層→花崗岩を主とする円礫・砂層である。これは、天竜川西岸地域とほぼ同じと言えるが、東岸地域が花崗岩及び長石・石英・雲母等花崗岩風化砂礫である点に大きな違いがみられる。

- 1層-黒褐色土。耕作土(水田)である。粘性は弱く、締まりは強い。
- 2層-黒褐色土。粘性は弱く、締まりは強い。
- 3層-黒褐色土。明褐色土がまばらに含まれる。粘性は弱く、締まりは強い。
- 4層-褐色土。水田敷に当たる。酸化鉄を多く含む。粘性は弱く、締まりは特に強い。
- 5層-黒褐色土。粘性は弱く、締まりは強い。
- 6層-明黄褐色土。粘性は弱く、締まりは強い。
- 7層-黒褐色土。粘性は弱く、締まりは強い。
- 8層-黑色土。黄褐色土がまばらに含まれる。粘性は各層よりやや強く、締まりはやや弱い。
- 9層-明黄色土。本層確認面が遺構検出面である。粘性はやや強く、締まりは強い。

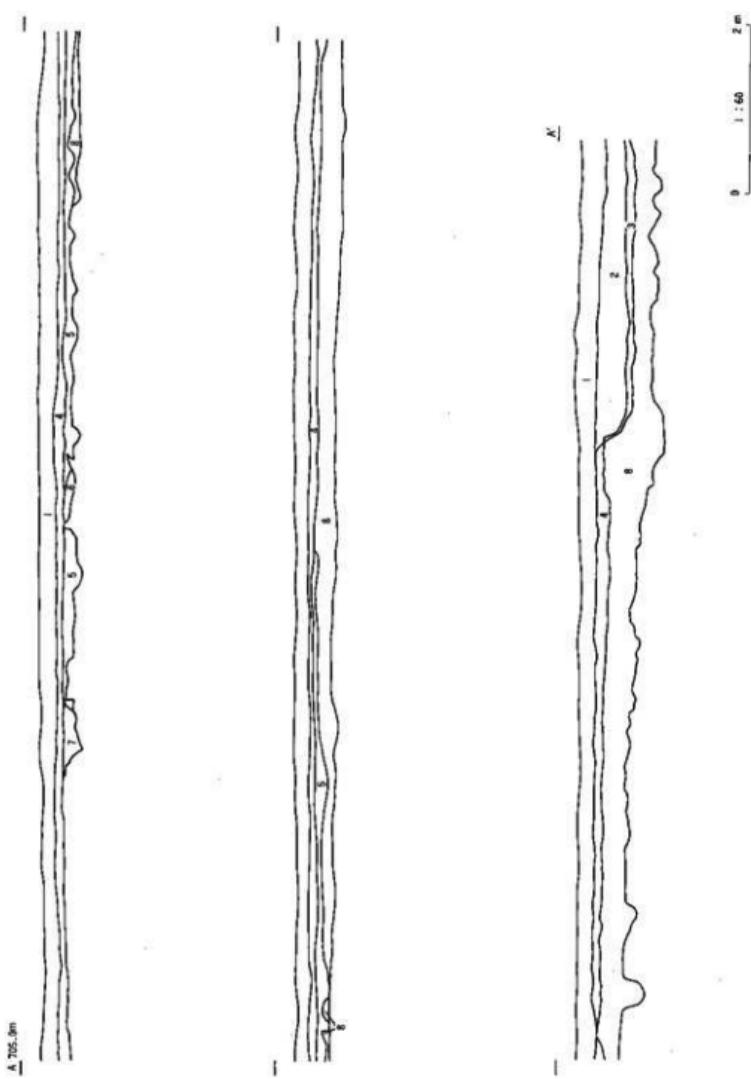


第3図 調査区設定図



第4図 全体図

0 1 : 200 5m



第5図 土層図

## 第IV章 検出遺構

### 第1節 土 坑

本調査において12基の土坑が検出された。土坑は、規模・形状・内部構造・覆土等の差異により大きく3つのタイプに分類することができる。これにより、各土坑の用途・性格が異なると思われるが、遺物の出土がまったくみられなかつたため、時期の判定が明確にできなかつた。

#### A類（2～5号土坑）

平面形が直径1.0m前後の比較的整った円形もしくは橢円形を呈するもので、深さも1.0m前後と深く円筒状に掘り込まれ、壁面は丁寧に仕上げられている。また底面もほぼ平らで、断面形は台形もしくは長方形を呈する。覆土はレンズ状に、規則性のある自然堆積をしている。

尚、土坑の底面におけるピットの有無で更に細分が可能である。

A-1. 土坑底面のほぼ中央部にピット状の下部施設を有するもので、2、4号土坑がこれに当たる。ピットは1穴のみで10cm前後の円形で円筒状に約30cm掘り込まれる。覆土は土坑最下部層と同様であった。中でも4号土坑は、構築面（確認面）から約4分の1の深さまで鉢状に、そして断部を結成して底面までほぼ垂直に掘りこまれるという二重構造となっている。

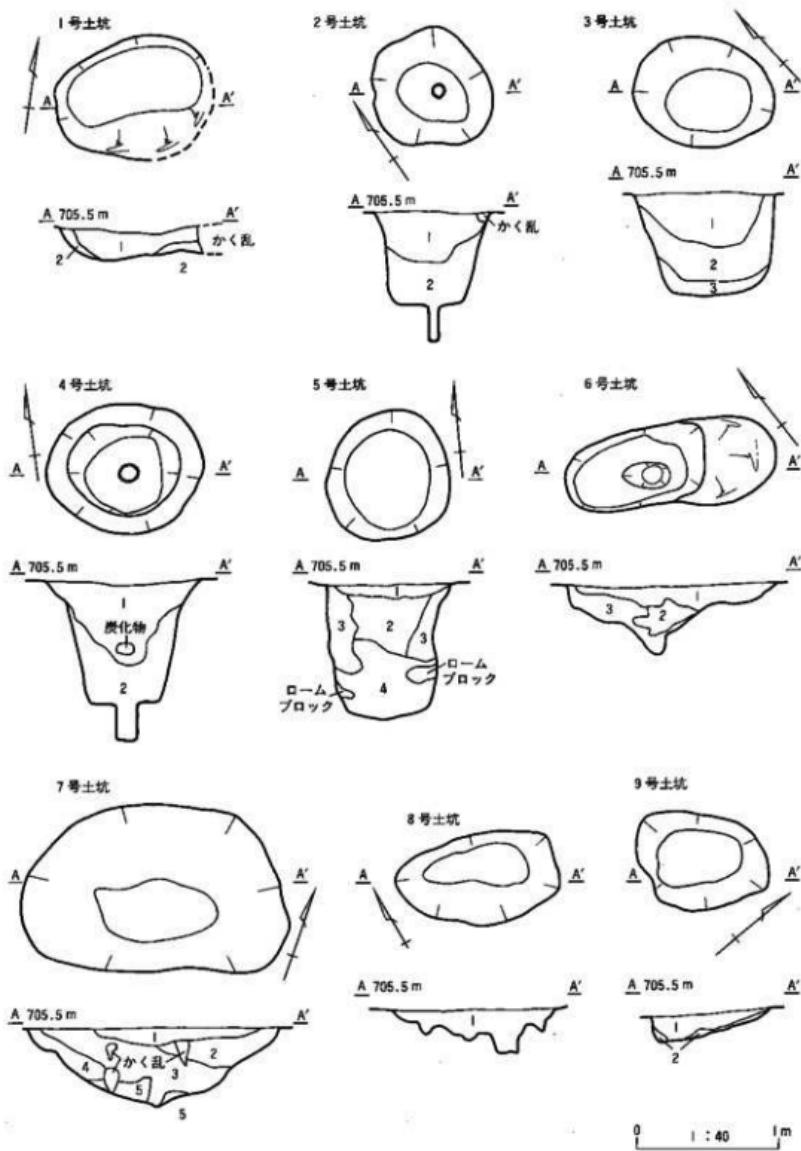
A-2. 底面にピットを持たない平底のもので、3、5号土坑がこれに当たる。

#### B類（1、6～10、12号土坑）

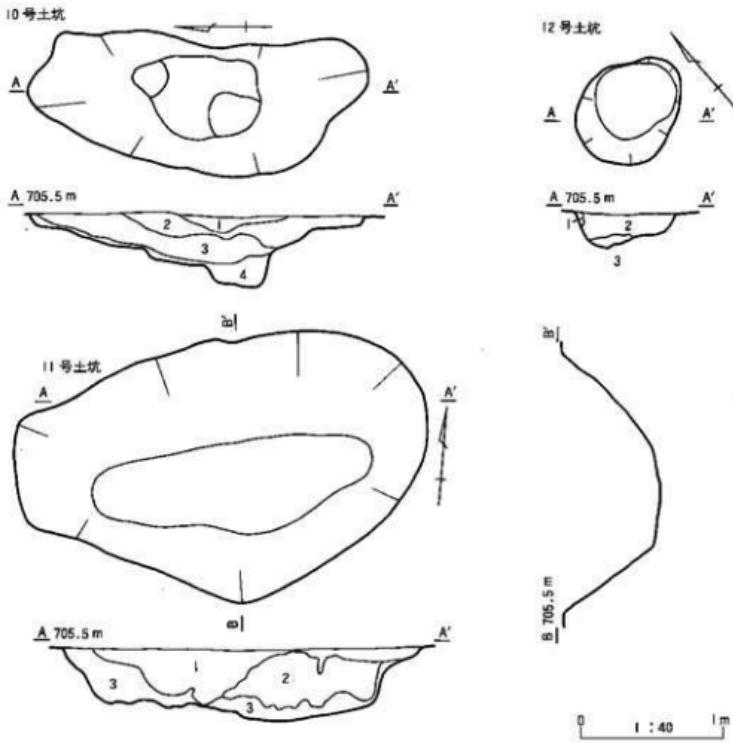
平面形があまり整わない橢円形が主で、深さは浅く掘り込みが粗雑で壁・底面に凹凸が目立つ。規模も、長軸が1.0m前後の小型のものから2.0mを越える大型のものまでみられる。覆土の堆積も、A類と比較して、やや規則性に欠ける。

#### C類（11号土坑）

平面形があまり整わない橢円形を呈し、長軸が3.0m弱と検出土坑中最も大型のものである。掘り込みはすり鉢状に掘り込まれるが、壁面及び底面には若干の凹凸が認められる。覆土は、プラン確認時における半カットでは3分層されたが、その後の堆土作業によって更にその上層に黄褐色土（ローム）が存在することが判明し、ロームマウンドの可能性を示唆するものとしてB類とは類別した。



第6図 土坑実測図 I



第7図 土坑実測図2

第2表 土坑一覧表

(規模欄：上段=長径、中段=幅、下段=深さ)

番号	平面	断面形	規模	覆 土		結び	粘性	備 考
				(cm)				
D-1	横円形 (一部かく乱)	皿 状		111	1層：暗茶褐色土（ローム粒子・黒色土をまばらに含む）	中	強	・東側はかく乱されている。 ・C-9グリッドに位置する
				84	2層：黄褐色土	中	中	
D-2	不 整 円 形	台形		83	1層：暗茶褐色土（ローム粒子・黒色土・炭化物をまばらに含む）	中	中	・底面のほぼ中央に小穴あり、小穴は平底直壁で、平面形は円形、断面形は円筒状
				83	2層：黄褐色土（黒色土・炭化物をまばらに含む）	中	中	・D-8グリッドに位置する
D-3	横円形	台形		99	1層：紫褐色土（炭化物を含む）	強	弱	・E-7・8グリッドにかかって位置する
				78	2層：黄褐色土	中	中	
				72	3層：暗黃褐色土	中	強	
D-4	円 形	台形		111	1層：暗茶褐色土（黒色土・ローム粒子を多量に含む）	中	中	・底面のほぼ中央に小穴があり、それは平底直壁で、平面形は円形、断面形は円筒状を呈する
				92	2層：茶褐色土（炭化物・ローム粒子をまばらに含む）	中	強	・B-8グリッドに位置する
D-5	円 形	長方形状		113	3層：黄褐色土（ローム粒子を多量に含む）	弱	弱	
				88	4層：暗茶褐色土（ローム粒子・炭化物をわずかに含む）	中	中	・C-6グリッドに位置する
				90		弱	弱	
				95		中	中	
D-6	横円形	皿 状		145	1層：暗茶褐色土（黒色土をわずかに含む）	中	中	・C-6グリッドに位置する
				54	2層：黑褐色土（ローム粒子を含む）	中	中	
				48	3層：黄褐色土（黒色土をわずかに含む）	中	弱	
D-7	横円形	半円状		190	1層：茶褐色土（黒色土をまばらに含む）	強	中	・D・E-6グリッドにかかって位置する
				117	2層：暗茶褐色土（ローム粒子を含む）	中	中	
				56	3層：黑褐色土（ローム粒子を多く含む）	中	中	
				47	4層：暗黃褐色土（黒色土を含む）	中	中	
				57	5層：黃褐色土（黒色土を含む）	中	中	
D-8	横円形	凹凸半円状		116	1層：暗茶褐色土（ローム粒子を多量に含む）	中	強	・D-5グリッドに位置する
D-9	横円形	台形状		65	2層：茶褐色土（炭化物を含む）	強	弱	・D-3グリッドに位置する
				28	3層：黄褐色土	中	弱	
D-10	不 整 横円形	皿 状		239	1層：暗茶褐色土（炭化物を多量に含む）	強	中	・B-3グリッドに位置する
				88	2層：明茶褐色土（炭化物をまばらに含む）	中	中	
				47	3層：茶褐色土（炭化物・小石をまばらに含む）	強	強	
				48	4層：黄褐色土（ローム粒子を含む）	弱	強	
D-11	横円形	皿 状		283	1層：暗茶褐色土（黄色土・黒色土をまばらに含む）	中	中	・D-2グリッドに位置する
				188	2層：黑褐色土（黄色土をまばらに含む）	強	中	
				50	3層：暗黃褐色土（黒色土をまばらに含む）	中	中	
D-12	円 形	皿 状		80	1層：黑褐色土（黒色土・ローム粒子のかく乱）	中	強	・C-3グリッド位置にする
				69	2層：暗茶褐色土（ローム粒子をまばらに含む）	中	強	
				24	3層：黄褐色土（ローム粒子を多く含む）	中	中	

(注：D=土坑の略記号)

## 第V章 ま と め

長岡扇状地の北側に位置する南小河内地籍においては、普濟寺遺跡（昭和63年度）、大垣外遺跡（第1次平成元年度、第2次平成3・4年度）の発掘調査が行われ、何れも縄文時代中期初頭時期を中心として集落址もしくは土坑群の出土を見ている。今回調査の行われた北田遺跡は、以前より遺跡としての周知はおろか、遺物の出土した例も少ない遺跡ではあったが、南に隣接する大垣外遺跡との関連性が高いと思われる。

調査結果については、前章にて記述した通り、3つのタイプからなる土坑群が検出されている。特にここで留意・注目する点は、A群として分類した土坑群である。中でも底面にピット状の下部施設を有するA-1と細分した縄文時代に見られる「落とし穴」土坑としての諸特徴を有するものである。この「落とし穴」土坑の調査検出は、今まで町内では例がなく、今回が初めてと言える。しかし、今回検出した「落とし穴」土坑からは時期の詳細を判定するべく遺物の出土がなく、また広範囲と考えられる狩猟場としての様子は今回の狭い調査範囲からは伺い知る事はできなかった。何にせよ、今回の調査によって縄文時代の狩猟場の一角であるという大きな成果を基にその広がりと詳細な時期判定がどのようにあるのか、周辺遺跡とどのように関わっているのかを大きな課題とし、今後の調査に期待したい。

尚、今回の調査結果が、今後の調査・研究と郷土の歴史究明に役立つことができ、また埋蔵文化財保護への一助となれば幸いと存じます。末筆ではありますが、調査の進行に当たり深いご理解とご協力を戴きました南小河内区を始め、発掘調査関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

### 参考文献（著者名50音順）

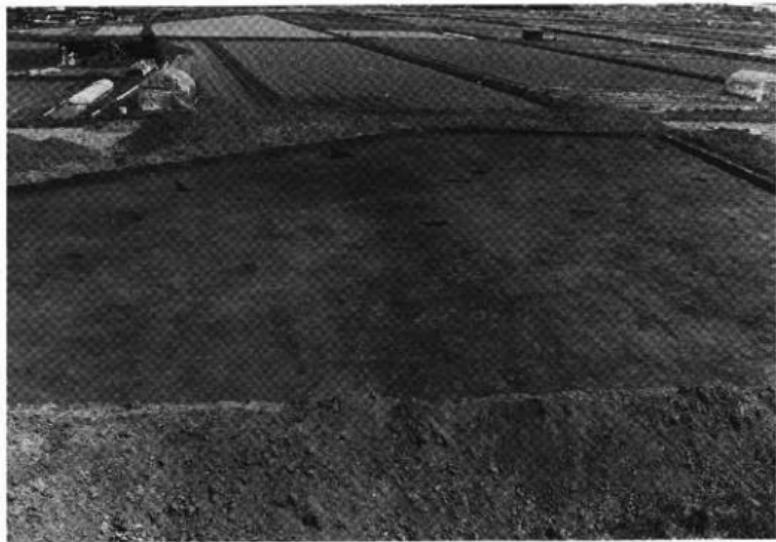
- |              |                              |
|--------------|------------------------------|
| 東京都埋蔵文化財センター | 1983 「多摩ニューカウン遺跡」            |
| 長野県史刊行会      | 1891 長野県史 考古資料編 全1巻(1) 遺跡地名表 |
| 長野県史刊行会      | 1983 長野県史 考古資料編 全1巻(3) 中・南信版 |
| 長野県史刊行会      | 1888 長野県史 考古資料編 全1巻(4) 遺構・建物 |
| 箕輪町教育委員会     | 1988 「一之沢遺跡」                 |
| 箕輪町教育委員会     | 1988 「源波古墳」                  |
| 箕輪町教育委員会     | 1989 「普濟寺遺跡」                 |
| 箕輪町教育委員会     | 1990 「大垣外遺跡」                 |
| 箕輪町教育委員会     | 1991 「古神遺跡」                  |
| 箕輪町誌編纂刊行委員会  | 1976 箕輪町誌 第1巻 自然・現代編         |
| 箕輪町誌編纂刊行委員会  | 1986 箕輪町誌 第2巻 歴史編            |

# 図 版



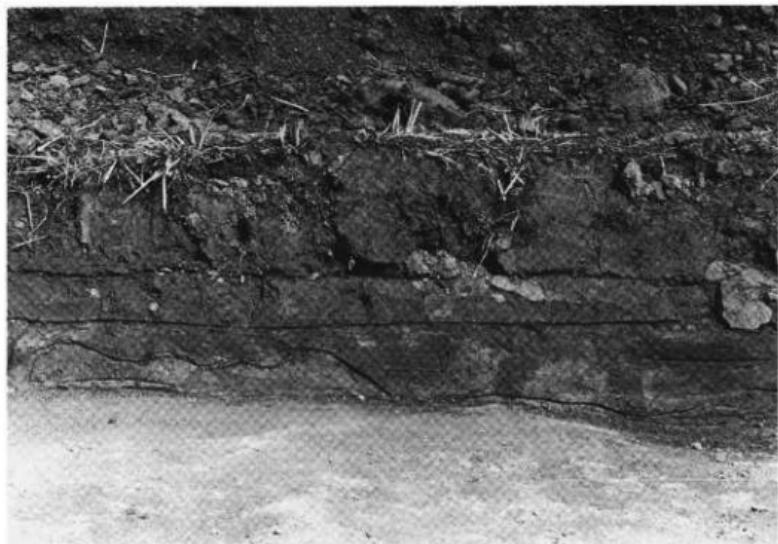


調査地近景（東より）

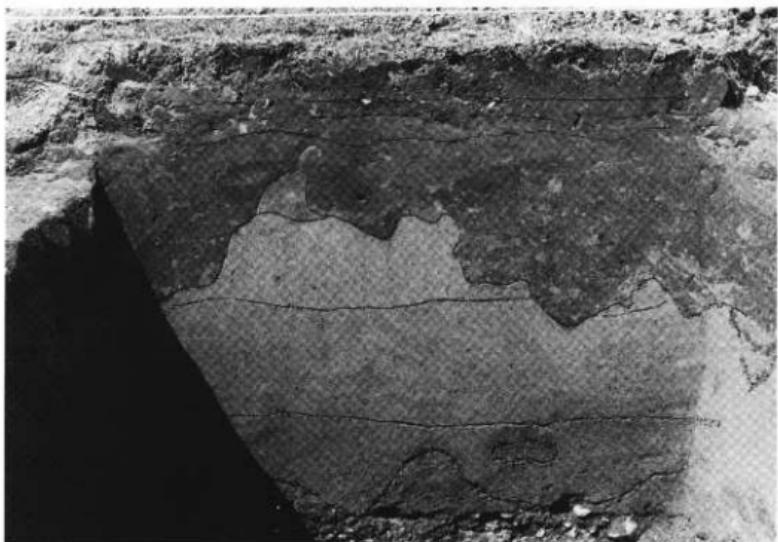


調査地全景（南より）

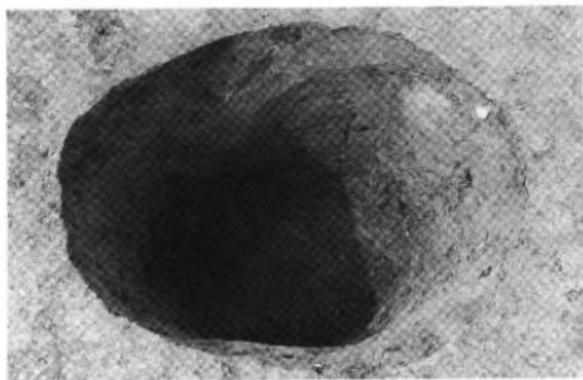
図  
版  
2

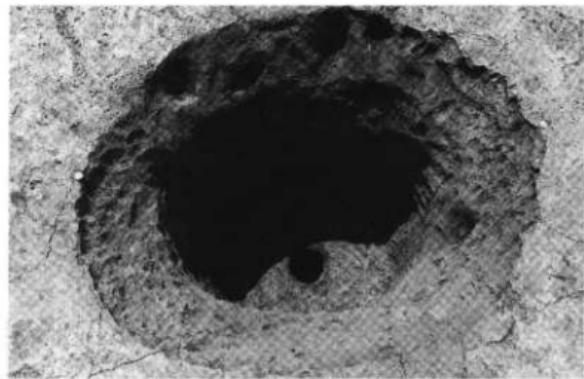


土層堆積状況 1

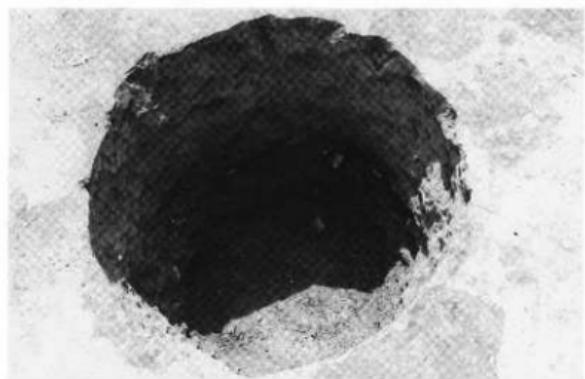


土層堆積状況 2





4号土坑



5号土坑



6号土坑



7号土坑



8号土坑



9号土坑



10号土坑



11号土坑



12号土坑



結団式風景



調査風景



調査参加者

## 北田遺跡

箕輪町国民健康保険東部診療所改築工  
事に伴う北田遺跡緊急発掘調査報告書

平成5年3月31日 印刷

平成5年3月31日 発行

発行所 長野県上伊那郡箕輪町教育委員会

印刷所 日本ハイコム株式会社  
長野県塩尻市北小野4724